

新年の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
1	明治27年	新年の部	東三省王の元日晴れたりな	元日	時候
2	明治27年	新年の部	元日の月代青き捕虜かな	元日	時候
3	明治27年	新年の部	赫奕と画棟の初日龍動く	初日	天文
4	明治27年	新年の部	初日出や清涼殿の御屏風	初日	天文
5	明治27年	新年の部	金鞍の登城まばゆき初日かな	初日	天文
6	明治27年	新年の部	猿引の猿と寝てゐる木賃かな	猿廻し	人事
7	明治27年	新年の部	やり羽子や妻戸あけたる京女	羽子板	人事
8	明治27年	新年の部	藪入のかゝれとてしも念佛かな	藪入	人事
9	明治27年	新年の部	のりものゝ簾かゝげて若菜かな	若菜	植物
1011	明治30年	新年の部	屠蘇と云ふなるは草根木皮かな	屠蘇	人事
1815	明治31年	新年の部	塀側の手毬つくべく乾きたる	手毬	人事
1816	明治31年	新年の部	学校に手毬赤きが多きかな	手毬	人事
1817	明治31年	新年の部	妹の姉は縫ひ居る手毬哉	手毬	人事
1818	明治31年	新年の部	境内や日當る方に手毬賣	手毬	人事
1819	明治31年	新年の部	窓の日や手毬の唄の夢心	手毬	人事
1820	明治31年	新年の部	凡そ元旦ばかり嬉しきはなし	元旦	時候
1821	明治31年	新年の部	元日の納言参議年わかき	元日	時候
1822	明治31年	新年の部	元日の一門悉く列太夫	元日	時候
1823	明治31年	新年の部	犬の子の三ツ生れたり今朝の春	初春	時候
1824	明治31年	新年の部	元日を一子の愚かなるがあり	元日	時候
1825	明治31年	新年の部	暮れんとす雪ともならで二日空	二日	時候
1826	明治31年	新年の部	海山の二日は風となりはげし	二日	時候
1827	明治31年	新年の部	寝さめして正月二日心かな	二日	時候
1828	明治31年	新年の部	里に住で正月二日家に在り	二日	時候
1829	明治31年	新年の部	詩に周南小松引くべく二人かな	小松引	人事
1830	明治31年	新年の部	之子こゝに嫁ぎて摘める若菜かな	若菜摘み	人事
1831	明治31年	新年の部	松の内雪ふりつゞく何の兆	松の内	時候
1832	明治31年	新年の部	家二三松の内とも見えぬかな	松の内	時候
1833	明治31年	新年の部	豊葦原瑞穂の国の雑煮哉	雑煮	人事
1834	明治31年	新年の部	朱の椀や雑煮の一家二十餘口	雑煮	人事
1835	明治31年	新年の部	帰化人の蓬萊かさる今年より	蓬萊	人事
1836	明治31年	新年の部	蓬萊や障子あくれば安房上総	蓬萊	人事
1837	明治31年	新年の部	君が代や刑措いて用ゐず嫁が君	嫁が君	動物
1838	明治31年	新年の部	異名嫁が君と申すはしたなき	嫁が君	動物
1839	明治31年	新年の部	萬歳を犬の見てゐる戸口かな	萬歳	人事
1840	明治31年	新年の部	雲少し薄く初日を拜み得つ	初日	天文
1841	明治31年	新年の部	初日出に雲かゝるべきを拜み得つ	初日	天文
1842	明治31年	新年の部	元日を一天くもり渡りけり	元日	時候
1844	明治31年	新年の部	年男の事未だ學ばざるなり	年男	人事
2680	明治32年	新年の部	蓬萊にちご這ひ出でし蜜柑か那	蓬萊	人事
2681	明治32年	新年の部	桃咲くや女の子の多き妾腹	桃	植物
2682	明治32年	新年の部	花の如きめの子生れし祝ひか那	花	植物
2683	明治32年	新年の部	葦蒲公英子をいつくしむめをと哉	雑	雑
2684	明治32年	新年の部	子はなくて雛も飾らず暮れにけり	雛	人事
2685	明治32年	新年の部	元日に子供の多き夫婦か那	元日	時候
2686	明治32年	新年の部	塗盆や林檎捧ぐる女の童	林檎	植物
2687	明治32年	新年の部	紫蘇摘むで笊紫や女の子	紫蘇	植物
2688	明治32年	新年の部	人の子は幟立てたることしか那	幟	人事

新年の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
2689	明治32年	新年の部	子を抱いて女拝むやお月様	月	天文
2690	明治32年	新年の部	輪飾に暁の風吹く戸口か那	注連飾	人事
2691	明治32年	新年の部	わかさりのさゝやかなるを飾りけり	注連飾	人事
2692	明治32年	新年の部	初鳥水汲にゆく神の井戸	初鳥	動物
2693	明治32年	新年の部	初鳥飛んで行きけり江の東	初鳥	動物
2694	明治32年	新年の部	二階かりて羽子板の画などかいてゐる	羽子板	人事
2695	明治32年	新年の部	羽子板の江戸はちりめん細工かな	羽子板	人事
2696	明治32年	新年の部	福引に一夜さゞめく屋形かな	福引	人事
2697	明治32年	新年の部	福引に芽出たきものを引きあてし	福引	人事
2698	明治32年	新年の部	歯染青く福藁五尺あまりか那	雑	雑
2699	明治32年	新年の部	山草のさやかに青し神の棚	雑	雑
2700	明治32年	新年の部	大雪の峠越えたる物語り	雪	天文
2701	明治32年	新年の部	大雪の城下夜明けし烟か那	雪	天文
2702	明治32年	新年の部	濱風や小石にまじる蛎の殻	蛎	動物
2703	明治32年	新年の部	磯村やかきから光る夜半の月	蛎	動物
2704	明治32年	新年の部	袴はいて宮の煤掃く男か那	煤拂	人事
2705	明治32年	新年の部	煤掃の日暮れて帰る主人か那	煤拂	人事
2706	明治32年	新年の部	いさゝかの蕪も引いてしまひけり	蕪引	人事
2707	明治32年	新年の部	蕪引大根引に異ならず	蕪引	人事
2709	明治32年	新年の部	既にして天の岩戸を明の春	初春	時候
2710	明治32年	新年の部	交りは古き頭巾を笑ひけり	頭巾	人事
2711	明治32年	新年の部	元日や取散らしたる古色紙	元日	時候
3785	明治33年	新年の部	此村の子供多さよ松の内	松の内	時候
3786	明治33年	新年の部	年玉を貰ひてやがて寐入りけり	年玉	人事
3787	明治33年	新年の部	羞かしき手毬の唄や物心	手毬	人事
3788	明治33年	新年の部	綱引の跡に落ちたり赤き紐	綱引	人事
3789	明治33年	新年の部	思はずの手を握りけり歌かるた	歌留多	人事
3790	明治33年	新年の部	鮮かにぬひものしたる手毬哉	手毬	人事
3791	明治33年	新年の部	姉妹の蜂に驚く手毬哉	手毬	人事
3933	明治34年	新年の部	若水や名のある井戸の白幣	若水	人事
3934	明治34年	新年の部	親猿は猿曳よりも老いにけり	猿廻し	人事
3935	明治34年	新年の部	鏝鏝としておはしけり謠そめ	謠初	人事
3936	明治34年	新年の部	ころげ行く手毬とまりし芝生哉	手毬	人事
3937	明治34年	新年の部	綱引のみかん撒いたるきそひ哉	綱引	人事
3938	明治34年	新年の部	居籠の人皆いねて水の音	居籠	人事
3939	明治34年	新年の部	抽斗や宝舟買ふ錢五文	寶舟	人事
3940	明治34年	新年の部	うりそめの景物貰ふ子供哉	初売	人事
3941	明治34年	新年の部	初曆小判は黄なる絵紙哉	初曆	人事
3942	明治34年	新年の部	蓬萊のかたへや屠蘇の小杯	雑	雑
3943	明治34年	新年の部	舞そめのトさしまうて疲れけり	舞初	人事
3944	明治34年	新年の部	乗そめの松原出でし一騎哉	乗初	人事
4233	明治35年	新年の部	嫁が君女三の宮を覗きけり	嫁が君	動物
4234	明治35年	新年の部	舞そめや人妬しきかづけもの	舞初	人事
4235	明治35年	新年の部	獨居て謠そめとてうたひけり	謠初	人事
4236	明治35年	新年の部	初鳥雀連歌の姿かな	初鳥	動物
4237	明治35年	新年の部	弾初をすべきわが子の忌日哉	弾初	人事
4238	明治35年	新年の部	女王祿や十三にして歌合	女王祿	人事
4239	明治35年	新年の部	ゆづり葉は神世ながらの緑哉	楪	植物

新年の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
4240	明治35年	新年の部	初夢のうそついて人を喜ばず	初夢	人事
4241	明治35年	新年の部	若水の如くさやけき心かな	若水	人事
4242	明治35年	新年の部	二三輪梅も小庭の恵方哉	恵方	人事
4243	明治35年	新年の部	門松や館をまかる白柏子	門松	人事
4244	明治35年	新年の部	喰積も獨すまひのさびしくて	喰積	人事
4245	明治35年	新年の部	太箸の太しく成ぬ雑煮腹	太箸	人事
4246	明治35年	新年の部	文臺に倚り試みつ福寿草	福寿草	植物
4247	明治35年	新年の部	もろ / \ の神も遊ばん松の内	松の内	時候
4248	明治35年	新年の部	傀儡師人相わるき思かな	傀儡師	人事
4691	明治36年	新年の部	宝引に勝ちて蜜柑をふるまへり	宝引	人事
4692	明治36年	新年の部	孫共の作文帖も祝ひけり	年賀	人事
4693	明治36年	新年の部	ひき初の琵琶の古びも平家哉	弾初	人事
4694	明治36年	新年の部	歌仙より俳人に似てさるまはし	猿廻し	人事
4695	明治36年	新年の部	猿引の子や賢にして容よし	猿廻し	人事
4696	明治36年	新年の部	猿引の猿に薬を飲ませけり	猿廻し	人事
4697	明治36年	新年の部	猿引に興がる韓の公子哉	猿廻し	人事
4698	明治36年	新年の部	歌かるた老將軍のきげん哉	歌留多	人事
4699	明治36年	新年の部	歌かるたも取らで眠りぬ里かへり	歌留多	人事
4700	明治36年	新年の部	歌かるた書齊の二人妬ましき	歌留多	人事
4701	明治36年	新年の部	理不尽に取られて泣きぬ歌かるた	歌留多	人事
4702	明治36年	新年の部	嫁が君美人眠りよりさめぬ	嫁が君	動物
4703	明治36年	新年の部	てうち / \ あはゝも三ヶ日	三が日	時候
4704	明治36年	新年の部	小松引僧正遍照後れけり	小松引	人事
4705	明治36年	新年の部	大江戸の一夜の雪に出初哉	出初	人事
4706	明治36年	新年の部	鶴の首長しと笑ふ初湯かな	初風呂	人事
4707	明治36年	新年の部	藏開藏の中なる謠かな	藏開	人事
4708	明治36年	新年の部	一族の百人あまり睦月哉	睦月	時候
4709	明治36年	新年の部	名所の松めで居れば傀儡師	傀儡師	人事
4710	明治36年	新年の部	番頭の足袋の驕や松の内	松の内	時候
4711	明治36年	新年の部	初東風に吹かるゝ兒の白さかな	初東風	天文
4712	明治36年	新年の部	山草を神世の艸と覚えけり	齒朶	植物
4713	明治36年	新年の部	水祝馬鹿髻赫と怒りけり	水祝	人事
4714	明治36年	新年の部	藪入のべにうるはしとたゝへけり	藪入	人事
4715	明治36年	新年の部	よき日和一月場所の男ぶり	初場所	人事
4716	明治36年	新年の部	福寿草咲くも待たるゝ老の春	初春	時候
4717	明治36年	新年の部	綱引や若き女の一たまり	綱引	人事
5224	明治37年	新年の部	御詠皆大雅の音や小松引	小松引	人事
5225	明治37年	新年の部	初出式南奉行の威勢かな	出初	人事
5226	明治37年	新年の部	松の内面白き手紙来ることよ	松の内	時候
5227	明治37年	新年の部	常陸帯浄きは神の心かな	常陸帯	人事
5228	明治37年	新年の部	小松引一時の詞人朝にみつ	小松引	人事
5598	明治38年	新年の部	齒朶青し雪中に立つ宮柱	齒朶	植物
5599	明治38年	新年の部	御降や衛士に馴れくる翁丸	御降	天文
5600	明治38年	新年の部	萬歳に塾生どっと笑ひけり	萬歳	人事
5601	明治38年	新年の部	帳綴り女もすなる日記かな	帳綴	人事
5602	明治38年	新年の部	舞始の其舞衣や昔ぶり	舞初	人事
5603	明治38年	新年の部	蓬萊に母子二人の家内かな	蓬萊	人事
5942	明治39年	新年の部	川上の國栖が小家や初かすみ	初霞	天文

新年の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
5943	明治39年	新年の部	白伏せの宵や櫓積む山の如し	白伏せ	人事
5944	明治39年	新年の部	白ふせて去る大家の庭寒し	白伏せ	人事
5945	明治39年	新年の部	ぬさかけて東風に面をさらしけり	初東風	天文
5946	明治39年	新年の部	幣かけて朝日を浴びる尊さよ	初日	天文
5947	明治39年	新年の部	若木折て枯葉を棄つる雪の上	年木	人事
5948	明治39年	新年の部	若木焚く山家の飯の白さかな	年木	人事
5949	明治39年	新年の部	喜び見る若木の枝の燃ゆる事を	年木	人事
5950	明治39年	新年の部	暖に雪踏む柳迎へかな	柳迎え	人事
5951	明治39年	新年の部	よき柳迎へてうれし雪滑	柳迎え	人事
5952	明治39年	新年の部	渋柿をまじなへばナルと申しけり	成木責め	人事
5953	明治39年	新年の部	生身剥二人逢ひけり枯木立	なまはげ(生身剥)	人事
5954	明治39年	新年の部	わが影の雪に映れり生身剥	なまはげ(生身剥)	人事
5955	明治39年	新年の部	鳥追の角東天に響きけり	鳥追い	人事
5956	明治39年	新年の部	ひとり出て門田の鳥を追ひにけり	鳥追い	人事
5957	明治39年	新年の部	老の春去年の挿木に培ひぬ	初春	時候
6401	明治40年	新年の部	餅花の下に木魚を叩きけり	餅花	人事
6402	明治40年	新年の部	御降や汐の八百重の汐けふり	御降	天文
6403	明治40年	新年の部	御降や賤が山田の古案山子	御降	天文
6404	明治40年	新年の部	御降やかか南山に誰が住める	御降	天文
6405	明治40年	新年の部	御降や福藁の尾のしだり尾の	御降	天文
6406	明治40年	新年の部	御降や皆栖に在らん鳥獸	御降	天文
6407	明治40年	新年の部	初刷の雪の小家に到りけり	初刷	人事
6408	明治40年	新年の部	孫子共ふくよかに見る初湯哉	初風呂	人事
6409	明治40年	新年の部	人につらく双六の運つよき哉	双六	人事
6410	明治40年	新年の部	郭外を一周す騎馬初かな	騎馬初	人事
6411	明治40年	新年の部	歌人の歌に糞しぬ嫁が君	嫁が君	動物
6412	明治40年	新年の部	掃きそむる反古は十有七字哉	掃初	人事
6413	明治40年	新年の部	飾白あたりを拂ふ大きさよ	飾白	人事
6414	明治40年	新年の部	年玉のかず / \ に灯や枕元	年玉	人事
6415	明治40年	新年の部	猿引の狂歌もすなる紙筆哉	猿廻し	人事
6416	明治40年	新年の部	萬才が飯喰ふ宿や梅の花	萬歳	人事
6417	明治40年	新年の部	帳綴に昔大家の名残かな	帳綴	人事
6418	明治40年	新年の部	まゆ玉の玉の如孫ら子ら居たり	繭玉	人事
6742	明治41年	新年の部	鋤鋤に其處あり雑煮くふ	雑煮	人事
6743	明治41年	新年の部	雑煮くふ頃鶏鳴狗吠かな	雑煮	人事
6744	明治41年	新年の部	雑煮すや御題の松を裏の山	雑煮	人事
6745	明治41年	新年の部	己がもの己がついたる雑煮かな	雑煮	人事
6746	明治41年	新年の部	雑煮くうてしばし端居や草の宿	雑煮	人事
6747	明治41年	新年の部	雑煮してすゞ菜があまる里居哉	雑煮	人事
6748	明治41年	新年の部	長幼の序日上る雑煮かな	雑煮	人事
6749	明治41年	新年の部	雑煮くうてしまへば正に晴るゝ雪	雑煮	人事
6750	明治41年	新年の部	旅なれば雑煮の事も竹枝かな	雑煮	人事
6751	明治41年	新年の部	雑煮くふ静かさもあり歌舞の町	雑煮	人事
6752	明治41年	新年の部	書始は女まじらぬ一間かな	書初	人事
6753	明治41年	新年の部	井開や凍しが上に汲こぼす	若水	人事
6754	明治41年	新年の部	とりしばる綾の袂や吉書始	書初	人事
6755	明治41年	新年の部	若水やその源の神路山	若水	人事
6756	明治41年	新年の部	此家にかゞやくや屠蘇の小杯	屠蘇	人事

新年の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
6757	明治41年	新年の部	綱引や双峯の神みそなはず	綱引	人事
7028	明治42年	新年の部	初鶏や金に戻りし金の精	初鶏	動物
7029	明治42年	新年の部	元日に恰も届く生海単哉	元日	時候
7031	明治42年	新年の部	この翁かくてあるぞや嫁が君	嫁が君	動物
7032	明治42年	新年の部	飛車と飛び角行と行く騎初哉	騎馬初	人事
7033	明治42年	新年の部	類句ありと互に擲揄す松の内	松の内	時候
7034	明治42年	新年の部	押鮎の腹平らかに居たりけり	押鮎	人事
7201	明治43年	新年の部	一家風試筆則ち富士の山	書初	人事
7305	明治44年	新年の部	瑞兆に松の雪見る雑煮哉	雑煮	人事
7408	明治45年	新年の部	若水の源知れや神の國	若水	人事
7409	明治45年	新年の部	太箸もその庭訓の威儀にこそ	太箸	人事
7410	明治45年	新年の部	千金の子と祝ぐ声す双六に	双六	人事
7542	大正2年	新年の部	大字書き畢ぬ御降晴れてあり	御降	天文
7543	大正2年	新年の部	神意苔青し若水くむ処	若水	人事
7544	大正2年	新年の部	初かまど夫の松柏を薪とす	初竈	人事
7545	大正2年	新年の部	我家の瑞氣墨の香匂ふ春	書初	人事
7682	大正3年	新年の部	初空を大にす神路山の杉	初空	天文
7683	大正3年	新年の部	若水や杉見る毎にぢゝが顔	若水	人事
7684	大正3年	新年の部	氏神の杉おろしの雪を鋏初め	鋏初	人事
7686	大正3年	新年の部	小松引く足の力よ腰の力よ	小松引	人事
7688	大正3年	新年の部	我影の顧盼を壁に冬ごもり	冬籠	人事
7759	大正4年	新年の部	雑煮ことし大嘗祭のある	雑煮	人事
7760	大正4年	新年の部	大雪の且よく燃ゆかまどの火	元旦	時候
7763	大正4年	新年の部	冬籠水を甘しと思ひけり	冬籠	人事
7830	大正5年	新年の部	神の國に我として生く初日かげ	初日	天文
7831	大正5年	新年の部	若水に山の高さよ笈鳴り	若水	人事
8055	大正6年	新年の部	第一の盃嗽了る年男	年男	人事
8056	大正6年	新年の部	年男吾が候ふや竈の火	年男	人事
8214	大正7年	新年の部	若水に來去す兒らが顔よ	若水	人事
8215	大正7年	新年の部	南山を流るゝ水や歳旦	元旦	時候
8400	大正8年	新年の部	硯の海濶く一家の吉書哉	書初	人事
8401	大正8年	新年の部	山草は神代の草と覚ゆるよ	齒朶	植物
8403	大正8年	新年の部	我家の水音に年新た也	新年	時候
8605	大正9年	新年の部	初鶏に鋤鋤ばらの控へたり	初鶏	動物
8606	大正9年	新年の部	早梅の御題畏し鋤はじめ	鋤初	人事
8608	大正9年	新年の部	取あへず手毬つくべき場作れ	手毬	人事
8759	大正10年	新年の部	讀初の一章大御心かも	讀初	人事
8760	大正10年	新年の部	よみそめや物と相和す古机	讀初	人事
8761	大正10年	新年の部	讀初の子等はや庭の凍に在り	讀初	人事
8762	大正10年	新年の部	神木立に吹雪も知らぬ畏さよ	初詣	人事
8764	大正10年	新年の部	蝶鳥の夢打破る工夫かな	雑	雑
8766	大正10年	新年の部	志す所をいはゞ桃の花	桃	植物
8767	大正10年	新年の部	蝶鳥と子等をはやしぬ松の内	松の内	時候
8769	大正10年	新年の部	よき人に日月遅し門の春	初春	時候
8918	大正11年	新年の部	元日も水鳥羽搏つ夜となりぬ	元日	時候
9491	大正14年	新年の部	日出處に國し家して雑煮哉	雑煮	人事
9493	大正14年	新年の部	詩二曰く家宝に宜し橙も	橙	植物
9667	大正15年	新年の部	故人全集年を迎へてめでたけれ	年迎う	時候

新年の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
9668	大正15年	新年の部	文章の稿のまゝ新年に入る	新年	時候
9669	大正15年	新年の部	いつ炷きし香の名残や松の内	松の内	時候
10305	昭和3年	新年の部	はつ空の雲をかぎりぬ小松山	初空	天文
10306	昭和3年	新年の部	はつ空や雲は五色にかたまりて	初空	天文
10307	昭和3年	新年の部	はつ空や芦辺の雪に両三家	初空	天文
10308	昭和3年	新年の部	はつ空や古檜雲吐く峰つゞき	初空	天文
10309	昭和3年	新年の部	はつ空に横斜す庵の古木哉	初空	天文
10311	昭和3年	新年の部	屋外の枯木観來る筆はしめ	書初	人事
10312	昭和3年	新年の部	峻嶺を攀づるが如し筆はしめ	書初	人事
10313	昭和3年	新年の部	厨なる古妻遠し筆はしめ	書初	人事
10314	昭和3年	新年の部	書始やいつ贈られし金不換	書初	人事
10315	昭和3年	新年の部	書始や朝凍りし庵の水	書初	人事
10316	昭和3年	新年の部	書始や窓の垂氷に咫尺して	書初	人事